



二宮町立山西小学校
学校便り「ゆずり葉」
第 115 号
山西小学校 72-3777

卒業式

三月二十日(月) 第四十六回卒業式が行われ、六十五名が卒業しました。

今回は、児童職員ともに、歌の場面以外は基本マスクを外しての実施となりました。久しぶりに子どもたちの表情を見ることができました。どの子どもも素敵な表情でした。

一 「植物の花を一人一人に例えて」

学校長から卒業生へのメッセージ
土から芽を出したのはあなたたち一人一人です。



土は家庭です。根を下ろすように家族や家庭を土台にしてください。**水はご飯と同じで、毎日食べさせてもらいました。空気や周りの自然は、友だちや地域の人たち、先人たちのように、**

出会った人や物、すべてに当てはまるでしょう。時には、強い雨風に打たれたこともあったでしょうが、倒れることなくここまで頑張ってきました。そして、日光を浴び、多くの人の暖かさに包まれてきました。これからも、ぐんぐん自分を伸ばしてください。

二 昨年のサッカーワールドカップでは、日本代表チームがドイツやスペインに勝って世界を驚かせました。今は、WBC(野球)で、大谷選手で盛り上がっています。しかし、その人たちは、今までに多くの失敗や負け、悔しい思いを経験しています。それらを乗り越えて、努力したからこそ、実力のある選手に



なりました。ですから、あなたたちも、これから思い通りにいかないことがあっても決して下を向くことなく、逆に、自分を強くするための出来事であると、気持ちを切り替えてください。この気持ちを切り替えられるかどうか、そのあとの成功にかかっていると思います。

三 「お陰様に気づく人になれ」

今日ここにきているお家(うち)の人たちのおかげで卒業できることを決して忘れないでください。

親子の中のタイミング

啐啄

「そつたく」と読みます。卵の中のヒナ鳥が殻を

破って生まれようとする時、卵の殻を内側からつくことを「啐」といい、それに合わせて親鳥が外側から殻をつつくことを「啄」といいます。ヒナ鳥と親鳥のつくくタイミングが一致することで、ヒナ鳥が生まれ出てきます。固い殻で守られている閉鎖された世界で育っているうちは、外界から保護されているので、その中はそれなりに居心地が良いかも知れませんが、中には途中で力尽きて生まれ出ることができないヒナもいるのです。

まず必要なのは、内側から殻を破ろうとする**ヒナの意志**です。このことなくして生まれ出ることにはできません。次に必要なのは、すでにこの世に生まれ出てきている**大人たちの援助**です。この援助がなかなか難しいものです。親鳥は卵の中でヒナという形に育て、殻を破れるようになるまで辛抱よく抱き続け、時期が来た時に外からつくく。つくくのが早すぎれば、中のヒナは未成熟のまま外に出てくることになり育ちきれません。逆に、つくくのが遅ければ、殻の中で出られないままになってしまいます。**どこまで温めて殻をつつき、子どもの自立を援助するのか。**このタイミングについては、**親と子の中でその答えを探すしかないのです。**

※今回は、このページのみです